

家(いえ)のどこにいっていいのかわからぬ理由(ゆうり)一つ。

「邪魔(じゃま)になるけん、外で遊んどりんさい。」と母(おはな)に言われ、家の前でサッカーボールを蹴(け)ついたら、目を真(ま)つ赤(あか)に泣(なみだ)きはらした叔母(おば)に「こげな日にふらふら遊(あそ)ぶどうしたらバチが当たるよ。」と叱(なぐ)られた。しかたなく家に入つてテレビをつけすると別の叔母(おば)に「音(おと)を出したらいけんよ。」と言われ、マンガを読んでいたら漁協(ぎょきょう)の組合長(くみあいじょう)が「おじいちゃんのそばにおつてあげんさい。」と酒(さけ)に酔(ゑ)つた声(こゑ)で言(い)つて、そのくせ祭壇(さいとう)の設けられた広間(ひろま)に行(い)つてみると、大人たちが集まつていて、座(すわ)る場所(ばしょ)などどこにもなかつた。

おじいちゃんが死(死んで)んだ。

それは、わかる。

ずっと一緒に暮らしてた祖父(おじいちゃん)だ。(かわいがつてもらつていた)「中学生(ちゅうがくせい)になつたら、おじいちゃんの船(ふね)で漁(ぎょ)に連れていつてやるけん。」と口癖(くばき)のように言(い)つた祖父(おじいちゃん)が、脳溢血(のうえき)で、お別れの言葉(ことば)を交(か)わす間もなく死(死んで)しまつた。

おじいちゃんが死(死んで)んだのは悲しいことだ。

それも、わかる。

悲しいときには、泣(なみだ)いてしまう。

それだつて、ちゃんとわかつてゐる。

わいじいちゃんが死(死んで)りは悲しいことで泣(なみだ)くべき
いじうとうことはわかつてゐるが、実際に(じじに)はいづ
いじう行動(こうどう)ができないでいるといづ少年(アダ
レや複雑(ふくざつ)な心境(じきょう)が一一(一一)でわからぬ。

なのに、涙(なみだ)が出てこない。悲しいかどうかはつきりしない。自分の居場所(いぢばしょ)を見(み)つけられないといつくり悲(かな)しみともできないのかもしれない。

父(おとうさん)に案内(あんない)されて祭壇(さいとう)の前に座(すわ)つた客(きゃく)は、丁寧(ていねい)なしぐさで合掌(あいじょう)と焼香(けいこう)をした。父(おとうさん)以外(ほか)の誰(だれ)とも知(し)り合(あ)いでないのが、広間(ひろま)にいる人(ひと)たちは皆(みな)、けげんそつな顔(がほん)で客(きゃく)の背(せ)中(なか)をちらちら見てた。客(きゃく)のほうも、焼香(けいこう)を終(おひ)えたあとでは広間(ひろま)にいる理由(ゆうり)をなくしてしまつたように、どこか居心地(ごこち)悪(わる)そうだつた。

② 客(きゃく)は、今夜(よ)泊(と)まり先(まへ)に、町内(まちない)の民宿(しゆどく)を予約(よやく)していた。父(おとうさん)は「ウチ(うち)に泊(と)まつてもろうてもよかつたのに。」と少し残念(ざいねん)そうに言(い)つて、戸口(戸ぐち)の脇(わき)に立つたままだつた少年(アダルト)を呼(よ)んだ。

「おじちゃんを『みちしお荘(みちしおそう)』まで案内(あんない)しちやつてくれや。」

「うん。」

「ほい、どうせおまえはここにおつても邪魔(じゃま)になるだけじゃけえ、お通夜(おとつや)が始ま(る)までおじちゃんのお世話(おせわ)して、町(まち)の案内(あんない)でもさせてもらえや。」

母(おはな)に続(つづ)いて父(おとうさん)にも「邪魔(じゃま)。」だと言(い)われたのは悲(かな)しかつたが、とりあえず道案内(みちあんない)と客(きゃく)のお世話(おせわ)といつ仕事(しごと)が与(あた)えられてほつとした。本(ほん)べの兵庫竹(ひょうこくちく)の難(ひがい)いづがる。

客(きゃく)が玄関(げんかん)で靴(くつ)を履(は)いている時(とき)、父(おとうさん)は初めて「ほな、シライさん、またあとで。」

邪魔(じゃま)になるけん
遊(あそ)ぶどりんさい
蹴(け)
こげな日に
こんな日に
いけんよ
いけないよ。
漁協(ぎょきょう)
漁業協同組合(ぎょぎょうきょうどうくみあい)の略(りく)
いそばにおつてあげんや
そばにいてあげなさい。

脳溢血(のうえき)
脳内の血管(くもく)が破裂(はつはつ)して出血(しゅじゆ)を起こす病気(びょうき)。脳出血(のうしゅじゆ)
ともいう。

7 図(こ)どこにも……
ない

掌(て)

泊(と)

荘(そう)

邪魔(じゃま)になるだけじゃけ
え
邪魔(じゃま)になるだけだから。

2 図(こ)……かもしれ
ない

3 意(い)
しぐさ

4 意(い)
けげん

5 意(い)
居心地(ごこち)